

第3回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会会議 会議録

1 会議の名称	第3回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会
2 開催日時	令和4年9月12日(水) 午後1時30分から午後4時30分まで
3 開催場所	青堀小学校4階 視聴覚室
4 審議等事項	議題 ・講演「これからの学校施設計画の課題」 ・グループディスカッション テーマ①「体育館の配置」 テーマ②「学習空間の在り方」 テーマ③「地域開放、地域交流、地域との連携」
5 出席者名	(委員) 山下 秋一郎、城森 隆之、野尻 剛史、安藤 玲仁 榎本 孝、安室 良二、檜山 小百合、高橋 栄美子 若月 忠光、平野 恵子、平野 勉 〈行政経営アドバイザー〉 千葉大学大学院 工学研究院 柳澤 要 教授 (事務局) 教育総務課長 中山 淳子 教育総務課施設係長 山下 知哉、教育総務課主任主事 鈴木 賛 教育総務課主任主事 鳥海 翔也、学校教育課主幹 宮崎 悟 都市政策課主査 河井 隆朗 (基本構想・基本計画策定支援受託者) 株式会社榎本設計建築事務所 高梨 修、人見 玲実 神野 マミ
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	7人
9 所管課	教育部教育総務課施設係 電話 0439-80-1348
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

第3回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会会議録

発言者	発言内容
<p>事務局 (山下係長)</p>	<p><次第1 開会></p> <p>皆様、こんにちは。本日はご多用のところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日、会議の進行を務めさせていただきます、教育総務課の山下と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>本日は青堀小学校改築に係るアドバイザーにご就任をいただきました、千葉大学大学院工学研究院教授の柳澤要様にご出席をいただいております。後ほど改めてご紹介をさせていただきます。柳澤様、よろしくお願いたします。</p> <p>会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【資料確認】</p> <p>それでは、ただいまから第3回富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会を開会いたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。全ての方にご出席をいただいております。また、本日傍聴者が7名いらっしゃることをご報告させていただきます。</p> <p>尚、会議録作成のため、録音させていただきますので、ご了承願います。</p> <p>それでは早速議事に移ります。以降の会議の進行につきましては、平野委員長にお願いいたします。</p> <p>はい。皆さん改めましてこんにちは。富津市教育部の平野です。</p> <p><次第2 会議録署名人の指名></p> <p>それでは、次第の2、会議録署名人の指名ですが、今回は安藤委員と檜山委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>
<p>平野委員長</p>	

< 3 講演 >

引き続き次第の3、講演です。事前に事務局から資料送付させていただいておりますが、本日はアドバイザーをお引き受けいただきました千葉大学大学院工学研究院教授の柳澤要先生から、これからの学校施設計画の課題をテーマにお話をさせていただきます。その後、グループディスカッションに進めさせていただきますと思います。なお、本日は3つのテーマを設定しております。それぞれのディスカッションの前には、柳澤先生から、テーマに沿った情報提供をしていただきまして、議論を深めていただければと思っております。

では、講演に先立ちまして、柳澤要先生のご紹介を事務局からお願いします。

事務局
(中山課長)

それでは、柳澤要様のプロフィールをご紹介します。柳澤様は、2012年から千葉大学大学院工学研究院教授を務めていらっしゃいます。専門分野は建築デザイン、建築計画、教育施設計画などの広く国の内外での調査研究をもとに、文部科学省など、国の調査研究委員会委員、日本建築学会委員会委員ほか、千葉県内でも、千葉市、松戸市、木更津市などの審議会の委員を多数務めていらっしゃいます。大変お忙しい中、今回のアドバイザーをお引き受けいただきました。ありがとうございます。以上です。

平野委員長

ありがとうございました。それでは、柳澤先生よろしければお願いいたします。

柳澤教授

はい。皆さんこんにちは。ただいまご紹介に預かりました千葉大学の柳澤と申します。ご紹介ありましたように、私は大学で建築のデザインや建築計画について、研究をしておりますが、実際に千葉県の色々な自治体の依頼で、特に学校計画に関してのお手伝いをさせていただいております。

あとは、学校以外の図書館や市庁舎、病院等、主に公共施設

の計画に係ることが多いのですが、最近では自治体で財政的に厳しい中、公共施設の老朽化が進み、建て替えの時期に来ている様々な公共施設の再生に関するお手伝いというのが増えております。例えば、少子化で学校の施設が空いていく一方で、建て替えなければいけないけども、予算がない中でどうしていいか、学校を地域と複合施設にしていくのか、学校と他の公共施設をうまく複合しながら再生していくような仕事も増えております。

今日は、これからの学校施設計画の課題ということで、主にこれから学校に求められているものは何か、施設というハードな面だけではなくて、教育や地域との関係、情報化やソフト面も含め、皆さんに議論できる情報をご提供させていただければと思います。よろしく申し上げます。あと、ディスカッションの際に必要な情報等あれば、私もテーブルを時々覗かせていただきますので、何かアイデアや情報が提供できればと思っております。

最初に、文部科学省が出した学習指導要領というのが改定されまして、既に新しい学校に求められる方向性が出ておりますが、そこに書いてある図は少しわかりにくいので、簡単に私の方で整理させていただきました。学習指導要領改訂の狙いは大きく3つありまして、「資質・能力」を高めて教育をしていくことです。知識とか技能というのは、これまでも学校において重要視されていたのですが、それに加えて思考力や判断力、表現力を高めて、単なる知識や技能だけでなく、それをより応用して実際の生活で活かして思考する力、判断する力、表現力を養う等学びに向かう力を養成する、人間性を高めるといったことも謳われています。

それから、このカリキュラムマネジメントは、教科横断的に教育をしていくこと。これまではどちらかというと、教科はバ

ラバラで、縦割りで授業をしていく教科ごとの相互の関連性があまりありませんでした。それを教科横断した教育によって、より総合的なマネジメントして行こうということ、それから、これは地域ということにはなりますが、子供や地域の現状に合わせた改善、外部資源をより効果的に活用していくことで、今日のテーマにもなっている地域とどのように関わって、地域のリソースをどのように教育に生かしていくのかも大きなポイントになります。

それからそれを、効果的に生かす上でもご存知かと思いますが、主体的、対話的で深い学びという、英語で「アクティブラーニング」というのを進めていこうという方針があります。アクティブの逆は保守的、受動的な学習というのに対して、アクティブラーニングはより主体的に動く。例えば、日本人の子供たちは真面目におとなしく座って静かに先生の話聞いていますが、それだけではなくて、自分たちで発表したり、友達とディスカッションしたり、自分で調べたり、主体的な学習を進めていくことによってより学ぶことへの興味関心を深めるとか、子供同士が学ぶ。私は昔から、外国の学校についても調べておりますが、特にアメリカやヨーロッパに行きますと、あまり黙って先生の話聞くという授業ではなくて、子供たち同士のグループでディスカッションしながら学習をして、わかったことをみんなの前で発表する授業がかなり古くから行われています。

日本はどちらかというと、真面目に先生から学ぶ、それはそれで良さがあるのですが、それをもう少し欧米でやっているような主体的な学習の方にシフトしていこうという姿勢があると思います。なので、子供同士が学び合う、先生や地域の人と対話して学んでいく、それから、深い学び、知識をただ溜めるだけではなくてそれをうまく利用する、相互の関連を理解する

ようなこともくんでいるのかなと思います。

少し古くはなりますが、文部科学省の方で、中央教育審議会
で出された初等教育と中等教育のあり方について示されてお
りますが、この中でも大きな柱としてカリキュラムマネジメン
トということですね、特に今コロナが出てきて、より重要視さ
れてくるのは、学校だけではなく、自宅や地域、場合によっ
てはそのオンラインで結んだ教育というものをどのように生か
していくか、そういった教育内容の精選や重点化、再配列しよ
うということがあります。それから感染症の対策や健康の問題、
3密防止の少人数編成、こういった学校における感染症の
対策も同時に新しい柱として出されている。それから、これは
以前からありましたが、STEAM 学習という科学教育や数学、芸
術等の実習的な科目がありますが、それを重視する動きありま
す。これは先ほど例を挙げた諸外国でも、STEAM 教育はかなり
重視されて、単なる知識より実践的な実習というものに重きを
置こうと世界的な潮流になっております。日本は逆に詰め込み
教育ではないですが、時間が無いので、様々な実験や実習の時
間を減らしたりする現場もありますが、そうすると主体的な学
習を考えていく上では、教科書の知識だけではなく、自分で調
べてわかることが重要だと思います。実習や実験といった科
目、あとは芸術や体育といった科目というのが非常に重要だ
と思っております。

オンライン学習が結構出てきていますが、オンラインとリア
ルの両方を生かして探究的、協働的な学びをしていくことや、
情報化というのも非常に大きな問題になっていくと思います。
自分で調べると言ってもツールがない時代は、先生から聞くと
か、教科書で学ぶことしかできませんでした。今は様々な IT 機
器がありますから、自分でキーワードを入れると色々な情報
が出てきますし、先生が黒板に書くよりも綺麗な 3D がタブレッ

トに出てくると、そうすると教員として教えるというよりは、生徒にうまく情報を引き出すことをディレクションしてあげれば、うまく学習が進んでいくのかなと思いますので、情報機器を活用した教育、場合によってはオンラインもできますので、今まではわざわざ行かなければできなかつたところにオンラインで繋がれば、学校に居ながらして現場に聞くとか、例えば何か科学的なことを聞いたかつたら、博物館にアクセスするとか、色んな生産者にアクセスする等、色んなことができるわけですね。そういった技術によって、今までできなかつた授業もできるという意味では情報化は非常に大きなポイントになります。

ご存知のように最近の GIGA スクールというものがあって、おそらく、青堀小学校さんもそうですかね、タブレットを各小学生の低学年ぐらいから扱う時代です。昔はコンピューターも何人かに1台という時代でしたが、今は1人1台のパソコンやタブレットを持っているという時代なので、そういう意味では、かなり日本の教育の中身は変わってくるかなと思います。

それから、もう1つ大きな柱が、地域社会との連携や協働です。地域社会とうまく連携していくこと、この場合はおそらく、富津であるとか、現青堀小学校があるエリアをうまく生かす、それから、地域の特色をうまく学校の中に取り入れていくことが大事だと思いますし、そのためには、繋ぐ人材も必要になります。地域と学校を結ぶコーディネータ的な役割をする人材を育成するとか、学校側にも地域側にも、そういった人材が求められます。

今日のテーマでもある「学習空間の在り方」ということですが、いくつか学習空間の参考事例をお持ちしました。主体的な学習を進めていくという意味では、従来のように先生が前に立って、生徒が机に座って授業を聞く場面だけでなく、例えば

グループでディスカッションし、発表するとか、図書館で本を調べる、パソコンで調べるといったことを考えたときに、教室だけではやはり狭く、ゆったりとグループ学習をやるとなると1クラス40人ぐらいだと普通の教室ではできかねます。そうすると、教室を大きくするのか、もしくはグループディスカッションときには、他のスペースをうまく使うか、学習空間を変えていく必要があります。

【さまざまな学習スタイルとスペース・コーナー】

ここに紹介したのは日本で初めてできたオープン型の学校で、愛知県にある学校になりますが、教室以外に図書館のような空間があって、1人で勉強したり、グループで学習するといった学習スタイルが始まった学校です。

以降、文部科学省がオープンスペースに対して補助を出すということで、日本にもオープン型のような多目的スペースを持った学校というのが増えてきています。

今回のテーマにも繋がりますが、廊下が広くなったような、空間を用意しといて、音の問題もあるので、間仕切りを閉じることもできますし、開けると教室と一緒に使って使えるようになっていきます。その代わり閉めて見えなくなると使いにくいので、ガラス張りで閉めても外部と視覚的に繋がるような作り方をしています。

完全なオープンだと音の問題とか、隣に気遣う等、評判が良くない一面もあります。オープン型の学校では、先生がそれはやめてほしいという声は多いです。私も関わっている学校は、完全なオープン型の学校はやったことはないです。大抵は仕切れるようにしたり、アクティブラーニングに対応した部屋を教室とは別に作って、ディスカッションとか発表するときはその教室に移ってやるといったやり方もあります。

今日は多目的スペースや教室自身の造り方をどうするかと

いうことも議論していければいいかなと思っております。

【学校の拠点となる図書館】

それから、図書館のあり方がこれからはかなり変わるのかなと思っております。青堀小学校さんが現状どうなのかはわからないのですが、これまでは、図書館というのは学校の端っこにあって、お昼休みに担当の子供が本を貸し出すときだけ行って、普段は閉まっているというような学校も結構あるのかなと思います。主体的な学習を進めていく上では、図書館が非常に重要になってきます。当然タブレット等を使えば、わざわざ図書館に行かなくても色々と調べられるのですが、やはり本でとか、司書の方に聞きながら情報を得るという意味では、図書館というのはこれから重要になってくるのかなと思います。

この学校は、私が関わった茨城県にある学校になりますが、図書館を校舎の真ん中に置いています。オープンな図書館を設けて、2階が教室で1階が特別教室ですので、特別教室からも、普通教室からもすぐに図書館に集まることができます。授業中に何か調べたいものがあつたらすぐに図書館に行ったり、調べ学習だけではなくて、友達と交流したり、大きな階段で発表会やイベントができるようになっており、図書館を中心にした学校にしています。

【ICTを活用した授業】

情報化に関しては特に教育、あとは学校の運営管理も様々な情報化、ネットワークを使うというのが今進んでいます。公立の学校ではまだ完全に難しい部分もあるのですが、私立はかなりの割合で全校授業情報化を進めているというのがあります。10年ぐらい前に行ったときの写真になりますが、有名大学の付属小学校では、この頃から、生徒一人一人がタブレットを持ち、電子黒板のようなもので授業をし、特別教室も普通教室も全部情報化をしています。最近やっとGIGAスクールが、一般の公立

の学校に広がってきたのですが、これからどんどん情報化というのは広がってくると思いますし、情報化を前提とした学校や教室作りというのが出てくるのかなと思います。

ただ一方で、今の教室サイズで、タブレットを使うと机が狭くなります。さらに、保管する収納が必要だとか、画面を映すモニターみたいなものが必要ですから、今の教室ではちょっと狭いという問題があります。

オープンスペースのような空間をうまく利用する学校もあつたり、教室自身通常の1.5倍に大幅に広げて、少し余裕を持たせてやっているところもあるので、私学は教室の大きさ自体が通常よりも大きくなっています。さらにその図書館と一緒にメディアセンターのような本だけではなく、情報を活用する授業ができるようなスペースを用意しておき、図書館自体を拡張して学習センターにしているという事例もあります。教室も、それ以外の空間も大きく変える必要があると思います。

【個別学習を中心とした教育と施設】【個別学習や交流の場となるラウンジ】

欧米では、教室の前が広がってしまして、ここで色んな小グループディスカッションができるようになっていたり、あとは図書館ではないのですが、広いラウンジがあつてここで自由に学習できるような空間が用意され、日本の学校をイメージすると驚くようなシーンがかなり出ています。

【さまざまな学習スタイルとスペース】

これはスウェーデンの北欧の学校ですが、非常にユニークな家具が置かれていますが、教室以外に様々な空間があります。ステージのようにして発表したり、色んなイベントでも使えますし、ちょっとした個室のような空間もあり、階段状のような空間があつて、そこで読書したり、何かミーティングや発表をしたり、教室空間以外の空間が充実しています。

今日のテーマではないのですが、「ゆとりと潤いのある学習環境とは」ということで、いくつかスライドを用意しています。

学校は朝から夕方まで、家に次いで長いこと子供たちが滞在する空間になるので、勉強しやすい環境が重要なのですが、居心地の良さがやはり重要だと思います。何か堅苦しい空間だとあまり落ち着かない、皆さんも休憩したいというときに、どんな空間がいいかなと思いつかなくていただくと、例えば喫茶店がいい、ソファがある空間、インテリアも白っぽいのは落ち着かないので、木の香りがするとか、色がカラフルだとか、あとは、明るいとかですね、これからの学習環境も、ただ効率的に学習ができるだけではなく、子供たちがリラックスできるとか、気持ちがいいとか、居心地がいいとか、そういう視点からの環境を考えていかないといけないと思います。

【通路に付随した小屋】【ニッチの交流空間】【トイレ脇の休憩スペース】

子供たちがふらっと集まって、お喋りできるようなスペースを持った学校もありますし、こちらはトイレの写真になります。

【交流が進むトイレ】

TOTOのトイレのメーカーのパンフレットから取りましたが、先生と生徒がアイデアを出して、実現したという事例が特集されていました。例えばトイレの洗面台ですが、通常だと壁に洗面台がついていますが、真ん中に楕円形の洗面台があります。なぜこういう形にしているのかわかりますか。これは生徒のアイデアですが、壁に向かっているよりも手を洗う最中に立ち話ができるようにということでこのような形にしたと聞いています。この手洗いのところで、色々ポスター貼ったりできるように、掲示板を用意したりベンチを用意したり、これ以外にも色々なアイデアを子供たちが出して、実際に学校で作っている

事例というのがあります。

20年ぐらい前に私が関わった小学校ですが、トイレのイメージを変えようということで、カラフルなオレンジ色の手洗いと座ったりもできるようなコーナーを作りました。

子供たちに嫌いな場所はどこですかというアンケートを取ると、結構トイレが多いです。嫌いなイメージというのは、ネガティブをポジティブにすることは非常に重要で、もうあんまりお金がなくて、唯一、どこか1ヶ所だけ改修するとしたらどこがいいですかと自治体から聞かれたことあるのですがトイレがいいじゃないかと。確かに全部変えてもいいですが、トイレのイメージを変えると学校のイメージ全体が良くなったりしますので、普段子供たちとあまりポジティブな印象が無い場所を、変えていくのも非常に効果的だと思います。

【生活拠点となるコモンスペース】【生徒のプロフィール紹介モニター】【通路に展開するさまざまな生活スペース】

こういった生活感という意味では、海外の学校もなかなか雰囲気がいいです。スウェーデンの小学校ですが、教室の前にオープンスペースというかコモンスペースがあります。日本のオープンスペースはただガランとする感じですが、ここは非常に生活の場として機能していて、教室の中が勉強する場とすると、一歩外に出て、コモンスペースがラウンジ的な空間になっています。冷蔵庫があったり、ミニキッチンもあります。日本の学校では考えられないですが、子供たちが家から色々お菓子やジュースを持ってきて、冷蔵庫に入れておきます。授業が終わるとそこに来て自分たちで食事したり、火を使ってお湯を沸かしてお茶を飲んだり、クッキーを食べたり、自由な空間としてデザインされています。家具も家庭的なものを使っていたり、インテリアもすごくおしゃれです。中には、廊下にカフェがあります。お菓子やジュースが売っていたり、ビリヤード台

が置いてあったり、遊び場もあります。

学校っていうと、学習するというイメージがあると思いますが、生活の場として、楽しい空間も場合によっては必要なのかなと思っています。

日本の学校ではあまりやりすぎると先生に怒られるのもありますが、学校を楽しい場にする意識も必要になってくると思います。

それから、基本構想の方に環境への配慮っていうのがありますが、エコスクールって言葉はよく聞くかと思いますが、環境配慮をこれからどうしていくのか、これは文部科学省が出している環境を考慮した学校施設の整備のモデルになっています。例えば太陽光発電、それから屋上緑化、ビオトープ、校庭の芝生化、雨水のリサイクル、風力発電等の自然エネルギーを活用するとか、自然の要素を学校に取り込んでいくことが謳われています。

【屋上に設置されたビオトープと自然発電装置】【屋上緑化とソーラーパネル】

実際に日本の学校で、屋上緑化をすることや、ソーラーパネル、ビオトープも増えています。ただ日本は土地が狭いってこともあって、屋上はビオトープがあり、太陽光パネルがあるが、学校全体で緑化とはなっておらず、屋上に上がらないと、環境配慮ができないパターンが結構あって、それだと弱い部分があります。日頃から子供が屋上に上がっているわけではないし、実際、太陽光や屋上緑化をしても、ほとんど子供は上げていませんという学校も多いので、せっかくエコロジーを挙げてもそんなに活用されてないというのがあるかなと思います。

【環境省エコ改修モデル校】

これはエコ改修のモデル校で東京荒川区にあるのですが、従来の学校に、ルーバーやライトシェルフで日光を遮蔽したり、

断熱性を高めたり、そういった工夫をするとか、屋上にはビオトープ、屋上緑化にしたり、太陽光パネルにしたり、エコ改修も一部の学校でやっています。エコ改修が耐震改修に比べるとまだ少ないのが実態で、環境と言っている割にはあまり日本では進んでいません。

【植栽を校舎に取り込んだスクール】

一方で、今まで見た中になかなかすごいと思ったのは、この広島にある学校です。公立学校ですが、かなりの屋上緑化が進んでいます。屋根の上に大きい木が生えていたり、教室の前が畑になっていて、子供たちが授業や放課後の時間に育てて、野菜を観察したりしています。屋上に川が流れていて、かなり自然と一体化したような学校です。ただ雨漏りはかなり酷くて、校長が雨漏りを気にしていますが、そう言いながらも意外と校舎は子供たちに好評みたいな話はされておりました。そこまでリスクを負えないですが、相当頑張って緑化するっていう考えもあると思います。

【自然素材・環境による居心地の良さ】

この2つは私が関わった学校になりますが、コンクリートの建物で、インテリアはなるべく木質感を出したいとのことでした。ランチルームは、インテリアに木を使って、教室も部分的に木質化を図り、主体の構造はコンクリートですが、インテリアはなるべく木を感じられるようになっています。

【アトリウムを中心とした開放的な空間】

これは九州の福岡の、私立の学校ですが、これも木を多用しています。この学校では、アトリウムという真ん中にある広い吹き抜けの空間を作っていて、屋根から光を取ってなるべく明るい開放的な学校空間を作るということでやっています。

福岡の比較的真ん中に位置していて、周りに高層ビルが建つような地域ですので、あまり広々とした敷地ではなく、外にあ

んまり開けないです。逆に中側に広い空間にすることによって、子供たちに開放的な感じを出したいということでやっています。夏は暑いと思われるかもしれませんが、上は電動ブラインドになっておりまして、日光を遮蔽して、空気を全体に通しますので涼しいです。冬は太陽光で暖め、夏は涼しくて冬は暖かいというような環境装置としての役割も果たしています。

【自然環境に恵まれた木造校舎】

これは宮城県の郊外にある、全部木造で作った校舎です。外も自然が多いのですが、インテリアも木ということで、中にも森の中で勉強生活しているような雰囲気が非常に気持ちいい空間です。こちらは、図書館と音楽室です。音楽室もガラスで外には木も見えますし、インテリアも木を多用されていました。この学校は私も行きましたが、すごく気持ちが良い学校です。

【都市部の大規模木造校舎】

これは、私が計画に関わりました、去年小学校ができて、今年中学校が隣にできまして、流山市というところにある小学校です。これも全部木造の小学校で、日本で最大の木造建築になっております。前のスライドは、地方の木造なのですが、これは完全に流山の住宅が密集する場所に建っていますので、普通はいわゆる木造建築を作らないような地域です。それもできるということもあるので、こういった木造とか木質化っていうのも考えてみるのもあり得るのかと思います。色んな条件がありまして、区画ごとに防火区画を作らないと成立できませんので、いろんな技術的な制約がありますが、木質化・木造化を同時に検討されるのも良いかと思います。

【屋上庭園・中庭での交流・生活】

これも両方とも私が関わった学校なのですが、左側の写真は茨城県の学校になります。各教室を家に見立てて、それぞれの

教室を一つの棟にして、それぞれ芝生の中庭がありますので、家のようにすぐに出れば、自分たちの芝生の庭があるようなデザインです。ここで植物を育てることができますし、他の学年に邪魔されないで、自分たちだけで使える専用の庭になっています。

教室の上が屋上庭園になっており、奥のオープンスペースではハイサイドライトで光を入れて、教室の上には、屋上庭園があります。屋上庭園は、植物の観察にも使えますし、これが断熱材になって、環境装置としても働いています。

【中庭での交流・生活】

群馬県太田市にある、ぐんま国際アカデミーという英語と日本語で授業を行う少し特殊な公立の学校なのですが、普通の校庭以外に中庭を設け、天気の良い日は外でも授業できるように、壁が全部黒板でできています。丸い石は椅子の代わりになって、青空教室ができる中庭になっています。

青堀小学校さんにも素敵な中庭があったので、中庭や木、芝生が生えた気持ちのいい中庭を造るというのも、1つ考えてもいいと思います。

【周囲の自然環境を内部に取り込む校舎】

海外でも自然を学校の中に取り込んでいくことは結構あります。これはアメリカのシアトルにある学校で、どこからも緑が目に入ってきます。中庭も素敵ですし、屋上庭園もあります。

今日のテーマに関連しますが、学校と地域の連携ということで考えてみたいと思います。従来の学校は塀があって、あんまり外から見えないことが多いのですが、地域と絡むという視点において、例えば学校で起こっている活動やイベントを地域の方に見せていく、それから、地域の人が学校の施設を利用する学校の開放や、施設を利用する視点もあると思いますし、最近

では学校の中に地域施設が入って複合化されているという事例もありますので、地域との関係性を考えていく必要があります。

【地域に開かれた「縁側通り」】

これは両方とも私が関わった事例ですが、1つは広島にある、小中一貫校です。この学校は小学校の敷地と中学校の敷地が隣り合っていたのですが、改築を機に小学校と中学校の建物を一緒にして、真ん中に一般の道路があり、一般の人も通ります。学校の敷地ですが、少し拡張して地域の人が居場所になるような場所を作っています。そこにガラス張りの部屋を作り、地域の人にも利用してもらって色んなイベントができるようになっています。この学校では特別教室は全部真ん中のストリートに面していて、音楽室とか理科室も地域の人が利用しやすいようにストリート沿いに特別教室を配置して、地域利用が進むような計画を立てています。

【地域開放ゾーンを明確に分ける】

こちらの群馬県伊勢崎市の学校は、赤く色塗られた棟は学校占有ゾーンになります。これは普通の教室や職員室、図書館等は一般には開放しない空間になります。一方で体育館やプール、1階ギャラリーや和室なんかもあるのですが、一部特別教室、図工室や家庭科室、音楽室等は地域開放できるように、同じ学校の敷地の中に通りを挟み、開放するゾーンと開放しないゾーンを明確に分けています。スムーズに地域開放ができる一方で、学校の安全を守れるようにゾーニングをする計画にしています。学校がやっている日中の昼間でも、一般の人が開放するゾーンには自由に中に入ってくれます。ただ開放しないゾーンでは、入れないようにしていて、段階的なセキュリティゾーンを作りながら、地域開放と学校の安全というのを両立させるように計画されています。

【地域に表出する学校の活動】

また、学校の活動を見せる良い例としては、富山市にある小中一貫校の学校です。学校の敷地内にゲートがあり、そのゲートまでは自由に地域の方が入って来られます。そこにベンチがあり、ベンチに座って休んでいると、中に階段教室のような多目的スペースがあるので、ここで音楽会や発表会を行って、ガラス張りから子供たちが何をやっているのか地域の人が見ることができます。こういった工夫により、直接的には交流できないが、その学校の活動を外部に可視化するということをしています。

【地域表出するカフェテリア】

こちらは川崎の小中一貫校で、カフェテリアを遊歩道に面して設置しておりますので、ここで犬を散歩したりしてちょっと覗くと、子供たちが給食を食べていたり、何かイベントやっているというような、見る、見られる関係を学校と地域で作ることがあります。

【学校の地域開放施設】

地域開放ということになりますと、シャワー室を作ったり、地域開放の時の管理ができるように、管理事務室を作っている学校というのがあります。

【コミュニティ施設と複合した学校】

今回の資料でも PFI になった事例もありましたが、民間事業者をうまく取り入れて、管理は完全に学校ではなく、民間事業者に任せるシステムがあります。もし複合化をするとか、地域開放をして、学校の負担が増えないようにしながら、色んな施設を運用していくといった事業手法も考えられます。

次は、小学校と児童館、図書館を融合した事例です。複合施設も最近増えていまして、私が関わっている静岡の磐田市にある、小中一貫校の計画ですが、地域図書館等を学校の中に併設

していますので、学校の図書館と地域図書館が連携しながらやるというような形も今増えてきているのかと思います。

複合化というのは今回考えているかどうかはわかりませんが、おそらく学童保育を融合するパターンは増えていますが、図書館と融合するとか、公民館と一緒にする、場合によっては高齢者施設と融合する可能性もあるのかなと思います。

【学校と地域施設の複合化】

この京都の中学校の事例は、実際に保育園と、高齢者施設を複合しています。ただ一緒になっているというだけではなくて、高齢者と子供たちの交流イベントとか、小さな保育園の子供と小学校の子供が交流するとか、ソフトの意味でも交流をするような工夫もしていて非常に面白いと感じました。保育園の子供と小学生の交流会や、高齢者施設を利用する老人と小学生、中学生が交流する様子が、ホームページに載っていて、複合化のメリットが生かせていると思います。

これはPFIでやっているなので、この施設の管理全体は民間事業者が全部オペレーションしているので学校の負担にはなっていません。教頭先生が色々な仕事をしなくてはいけないわけではなく、施設の維持管理は業者がきちんとやってくれるので、例えば学校の放課後にエレベーターの階を調整して学校の方には入れないようにするとか、指定した階のみエレベーターが止まる等、うまく切り替えることができます。上の方の階には、広い和室があり、茶道教室や地域の人が色々なサークルで使う際は、上の階までしか行かないようにエレベーターが動いて、学校の階には止まらないようになっています。さらに、1階は飲食店が入ってしまして、イタリアンレストランが入っています。こういった民間施設も入っている学校です。この場合も、入っている民間施設が学校教育にも貢献していて、例えばイタリアンレストランのオーナーが、クラスに来て食育について

て教育に関わったり、安く入れる代わりに学校にもちゃんと貢献するという条件でお店を入れたりします。

こういう事例は少ないですが、これからはもしかすると、公共施設の複合化だけではなくて、民間と公共がうまく連携しながら施設を効果的に活用していく。当然、安全と管理は重要だと思うのですが、このような活用もあり得ると思っています。

一方で、複合化のメリットのもう1つのポイントとしては、将来的に少子化が進むことで出てくる空き教室が今までだとなかなか活用できないですが、地域施設と一緒にしていると空いたところを、徐々に地域施設側に移行していけば、スムーズに学校をある程度縮小しながら、地域施設の方を拡張していくこともできますので、施設の無駄を無くし、上手くトランスフォーメーションできるというメリットもあります。

ちなみに私が関わった事例だと、千葉の習志野市で学校モデルを作ったのですが、オレンジ色で塗られている場所が、20年後にだんだん拡張していき、クラス数が減っていくと、地域開放する部分がだんだん増えるようなモデルを作りました。

一方で例えば校舎を2つ、3つに分棟しておけば、最初に教室棟として使っていた校舎を地域施設として転用したり、敷地も分けた形で学校の安全をキープしながら、地域施設の方に移行させるようなプログラムが組めると思いました。

はい。ちょっと時間がないので、色んな資料を用意したのですが、簡単に最後は情報提供だけにしたいと思います。今回のテーマでは無いのですが、インクルーシブ教育についてずっと研究しています。障害を持った子供たちと、一般の子供たちが一緒になって勉強する環境をどのように作っているのかとい

うことです。世界的に完全なインクルーシブ教育を行っている北欧や、完全に分けているドイツ等の国がありますが、日本は中間だと言われています。この間の新聞を見ていると、日本はインクルーシブ教育を進めているように見えて、実は差別されているみたいな内容が記事に載っていました。

なので、障害を持った子供たちが一般の子と一緒に学べるようにする教育環境をどのように作っていくのかというときに、今まではなんとなく障害を持っていたら特別支援学校に入れるとか、または学校の中でも特別支援学級クラスに入れるようなのですが、先月オーストラリアに行ってきたとき、オーストラリアは完全にインクルーシブ教育です。特別支援学校や特別支援学級がほぼなくて、よっぽど重症の子は特別支援学校に行くこともあるのですが、かなり問題がある子でも一般の教室の中に入って、そのような子たちがうまく勉強できるような環境やサポートがされています。

日本でも色んな自治体で結構そういった動きが、大阪や関西でかなり進んでいるのですが、やはりまだまだ環境的に整っていないだとか、先生の負担が大きいこともありますので、完全なインクルーシブ教育は難しい面があります。

一方、これから世界の潮流としては、そういった動きがあり、世界で行われたインクルーシブの会議に日本の団体が行って、日本はこんなに遅れているから、日本の政府に向けた団体の訴えが大きくニュースで取り上げられることもありました。時間になったので、この辺のお話はまた改めてお伝えしたいと思います。

【児童や地域住民とのワークショップ】

最後に、みんなで参加する学校作りということで、今日まさに、ワークショップで話し合いをしようと思うのですが、最後に共有しておきたいのは、地域の方も含めて、子供たちも一緒に

なって学校作りをする、そういった視点が非常に重要であると思います。

学校を計画していく中で、色々な人たちのアイデアを入れながら計画することが重要なのかなと思います。ちょっと時間が迫っておりますので、これで講演を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

平野委員長

柳澤先生、どうもありがとうございました。貴重なご講演ありがとうございました。

それでは、今の先生のご講演の中で、何かご質問やわからない点等がありましたら、皆様からお願いいたします。

はい。榎本委員。

榎本委員

委員の榎本と申します。地元の区長をやっております、よろしくお願いいたします。ネットから資料を前回、お配りさせていただきましたが、読んで下さった方は多少教授のお話のさわりがわかったかと思うのですが、その中で教授がおっしゃるとおり、私もアクティブラーニングが重要であると、今までのような講義式じゃなくて、受け身でなく生徒が積極的に考える授業が必要かなと思っています。

青堀小学校も50年経ち、また新築してからも40、50年経っていくと思いますがアクティブラーニングを実施する上で、どういう設備が必要かを教授のお話で伺いましたけども、やはり開放的に造るということで、参考になる小学校たくさんあるのですが、私立の場合は、財源があるので素晴らしい設備が作れると思います。ただ、公立の場合は限られた予算もあると思うので、その中でどのような学校ができるかというところで、また教授より、青堀小学校から一番近いところで木を使った校舎でアクティブラーニングを実施して成功している学校がありましたら、今後の視察のためにも教えていただけたらと思います。

柳澤教授

私の方から紹介した校舎は、公立の学校がかなり入っています。私立の学校もいくつかあるのですが、必ずしも私立でお金をかけないと立派なものができないのかというと、そうではないと思います。色々な工夫次第でできるという面はあります。ただやはり制約は当然あると思いますので、何を重視するか、例えば、教室を1つずつ全部アクティブラーニングに対応できるようにしていくというのはかなり大変だと思いますが、普通の教室をある程度コンパクトにしても、各学年にアクティブラーニングにも対応できるような少し広めの、グループディスカッションや発表ができるようにする部屋を作るとかそういうこともあるかもしれませんし、上手く全体を調整しながら、作っていくことで可能かと思います。

これもある意味アクティブラーニング的な作り方といえますが、グループディスカッションする際に、これにもう1つ何があればいいのか考えたときに、スクリーンが1つだけだと難しいというときには、各グループにプロジェクターやスクリーンがあった方がいいと思いますし、そういのはセッティングが面倒ですので、モニターか何かあった方がいいとか、レクチャー形式やグループ形式にしたいとき、すぐ簡単に変えられるようにするには、今のこのテーブルや椅子はちょっと変えて、キャスターが付いていて自由に動かせるようにした方がいいとか、そんなにお金かけなくてもいいと思うのですが、少し発想を変えると意外とアクティブラーニングに対応した環境や空間はできると思います。

もし、最初から作るとしたら、そんなにお金をかけなくとも低予算だと壁を全部ホワイトボードにして、そこに直接書けるようにするとか、私が計画したものだと、教室のどこでも投影できるとか、そういった工夫によって、全体をアクティブラーニングに対応できるような部屋に変えたという例も

あります。程度にもよりますが、色々工夫すれば必ずしもお金をかけなければできない訳ではないと思います。

あと、私が関わった例だと、同じ千葉大学附属中学校が、かなり古い学校で、多目的スペースのような空いた部屋を実験的にアクティブラーニングの部屋として整備しました。

そこで行ったことは、今応用できるかはわかりませんが、家具メーカーさんに協力していただいて、スタンディングテーブルという高さを自由に変えることができ、下にタイヤがついている自由に動かせるテーブルをたくさん購入して、中学校の子供たちに総合学習の時間にその部屋を使ってもらってやってみました。じっと座っていると難しいのですが、動き回って個人の高さに合わせてぐるぐると回って、周りに色々な本が置いてあるので、調べたり、友達と集まったり、別のグループについたりテーブルごとに動いて学習する。45分授業ですが、生徒たちは疲れていなかった様子でした。考え方によっては今までの机を可動式の机に変えるだけで、実は教室は新しい可能性を持っているとわかって、先生も結構驚いていました。ずっと黙って立つのは辛いけど、意外とアクティブラーニングの授業をやっているときは生徒も気にならないということがわかりました。椅子もあるので必要なときは椅子を持ってくればよいです。家具メーカーに机を提供してもらいましたが、それ以外の家具は普通のものでしたので、発想を少し変えるだけで、それまでの部屋が何か新しい可能性を持つということも可能だと感じました。少し余談になりました。

榎本委員

ありがとうございました。それと私も色々資料を見させていただきまして、今までの授業の形式ではなくて、子供たちが自主的に参加できるように、我々がいない時代になって30年40年経ったときに、大げさかもしれませんが、日本、世

界で通用するようになりたいと子供たちに望みがあれば、やはり自主的に参加できると思います。

私の個人的な考えですが、教室で講義式だと、3分の1ぐらいの優秀な子は一生懸命聞いてやってくれたかもしれないけど、3分の2ぐらいは居眠りしていたり、授業以外のことを考えたりする傾向に、私の経験からするとそうになってしまうのかと思います。

ところが参加型ですと、やはりそれぞれで工夫をして意見を出し合ってまとめて、先生方は大変になると思いますが、教授が言われたように発想の転換で工夫していかなければいけない時代であるし、また、その環境作りが我々の使命だと思います。ありがとうございます。

柳澤教授

当然、今の40人学級というのが前提になっていると、なかなか難しい面はあると思います。例えば私がスライドでお見せした北欧だと、1人の先生に対して15人ぐらいの生徒で、日本で言うと半分以下のクラスになります。アメリカとかでも30人、20人ちょっとでさらにアシスタントの先生もついたりします。また、オーストラリアも、30人未満で25人ぐらい、さらにアシスタントの先生がいるので1人あたり10人から15人ぐらいっていうのが前提になっていますので、アクティブラーニングは重要視されていますが、今の仕組みも同時に変えていく必要があるとは思いますが。

なので、完全に海外みたいに教室ごとに取り入れるというのは、今のこの制度が変わらない限り難しいと思いますので、基本は今の授業を前提にしつつ、アクティブラーニング型のグループディスカッションや発表、個人学習、多様化学習を進めるときに、環境を用意するというような考え方でもいいのかなと思いますので、なかなか全体をガラッと変えていくためには、今の仕組みを少し変えていく必要があり、少

榎本委員	<p>人数化もしていかなければならないです。ただ、予算の問題が出てくるので、なかなか難しい問題だと思いますが、ソフトとハードが両方とも変わっていく必要があると思っています。</p> <p>続けて申し訳ありません。近隣の小学校で、アクティブラーニングを取り入れた参考になるような事例とかはありますか。</p>
柳澤教授	<p>私はこの地区辺りは、あまり詳しくはないのですが、環境という意味では、紹介した流山の学校や、視察に行かれた打瀬地域の学校は比較的新しいことをやっていると思います。そういうところが本当に理想的かっていうと、人数が意外と多いのに、オープン化が進んだゆえに、学校の中が大変だということもあるので、本当に理想的なのかというところではあります。</p>
平野委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>他にも聞きたいことが多々あるとは思いますが、また後ほど、時間を取らせていただきまして、進めさせていただきます。グループディスカッションの方を進めてさせていただきます。</p> <p><次第4 グループディスカッション></p> <p>それでは、早速次第の4、グループディスカッションに移りたいと思います。すでに2つのグループに分かれておりますので、早速始めさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、最初のテーマ①「体育館の配置」について柳澤先生から情報提供を受けたいと思います。先生よろしくお願いたします。</p>
柳澤教授	<p>私の方もあまり事前に把握していませんが、体育館配置というのは、校舎と体育館を一体に作るかバラバラにする</p>

<p>事務局 (中山課長) 柳澤教授</p>	<p>かを、今回議論するというような認識でよろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>技術的な問題がありますが、どちらも可能だと思います。私に関わった事例ですと、都心部の敷地を有効に活用する場合、体育館を別棟にすると敷地を有効に使えないので、体育館を校舎の中に入れ込むという事例はあります。</p> <p>今回、敷地がどれだけ余裕があるか分かりにくい部分がありますが、体育館を校舎と一体化するのは可能だと思いますが、一方でデメリットとしては、体育館はどうしても音や振動が発生しますので、体育館の下の階にどのような部屋があるかによっては下階に影響があったり、体育館を開放するとなると、外に音が漏れたり、どのような部屋が隣接するか、どのような部屋と一緒にいくかというのは、環境に影響するという意味で考えなければいけないです。</p> <p>また、青堀地区周辺はあまり影響ないかもしれませんが、都心になりますと体育館を上の方の階に持っていくと、体育館だけでも3階分ぐらいの高さがありますので、ボリュームがかなり大きくなります。そうすると、北側に対しての日影の問題だとかも出てきますので、配置によってはボリュームがかなり大きくなります。</p> <p>あとは避難や体育館が災害拠点になるとき、通常に使うにしても上の階だと避難しにくいこととか行きにくいこともあるので、そのような点で敷地に余裕があるということであれば、体育館は体育館として、別棟で建てるというのが自然だと思いますが、敷地の有効活用という視点から、検討の必要があると思います。私の方から、提供できることはこんな感じですよ。</p>
--------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平野委員長	<p>はい。ありがとうございました。様々なパターンの考え方をお示しいただきました。</p> <p>それでは、委員の皆様には情報提供を参考にいただき、体育館の配置についてお考えいただければと思います。お考えになったことは、前回同様お手元の付箋に書き記していただき、模造紙に考え方をまとめていただければと思います。</p> <p>また前回とおおり、5分経過いたしましたら、事務局からお知らせいたしますので、それぞれのお考え方を整理していただければと思います。</p> <p>それではよろしく願いいたします。</p> <p>【5分各自考え】</p>
柳澤教授	<p>作業しながら聞いていただきたいのですが、今回はプールを設置する方向ですか。</p>
事務局 (中山課長)	<p>はい。プールも併設する考えでおります。</p>
柳澤教授	<p>あとは、コストの問題や技術を求められますが、都心部になると、体育館の上にプールを設けることがあります。当然、構造的に重くなったりするので、コストはかかりますけれども、プールと体育館別々に平置きすると相当グラウンドは面積取られます。あとプールを上に乗けるとプライバシーの点では良いとか、また地域開放を考えるときに体育館とプールをセットで地域開放とする考えもあります。</p> <p>複合化のときも地域に開放する部屋と、体育館をセットにして、その棟だけを学校と区画出来るようにしていくこともあります。そのような考え方は、敷地を効率的に利用する視点だけではなく、地域開放の際、ゾーニングとして考えるときに、校舎棟と体育館棟を分けて、体育館棟の方に開放できる特別教室を置いたりします。</p>

平野委員長	<p>私の場合、カフェテリアといった地域利用する部屋を体育館側に配置したり、調理室や音楽室のような部屋は体育館に楽器を運んだり、調理機器を災害時に炊き出しで使用する場合がありますので、体育館と一緒に配置したり、そのような開放とか、災害を考えたときにどうしたら良いのかという視点もあるのかなと思います。ちょっとした追加でした。</p> <p>ありがとうございます。まさに、前回ご説明しました、美浜打瀬小学校が駐車場の上にプールがあったり、谷津小学校も屋上階にプールが設けられていたり、皆さんご覧になっていただいたと思います。</p>
事務局 (中山課長)	<p>それでは、よろしく願いいたします。</p> <p>はい。5分経過しました。</p>
平野委員長	<p>はい。それでは、書き出した付箋を模造紙に貼り出しながら、他の委員の皆さんとお話いただければと思います。</p> <p>順次、皆さんがお話いただきまして、そこからまた思いついたこと等ございましたら、どんどん付箋に書き出していただきたいと思います。</p> <p>今回もグループとして、1つの意見をまとめることはいたしませんので、皆さんそれぞれのご意見を出し合っていただくことが一番の目的ですので、よろしく願いしたいと思います。それでは、20分程度のディスカッションの時間を取らせていただきますので、またお声掛けさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
事務局 (中山課長) 平野委員長	<p>【20分のグループディスカッション】</p> <p>はい。皆様、体育館の配置についてはどうでしょうか。ご議論の方はまだお時間必要でしょうか。大丈夫ですか。</p> <p>それでは時間が参りましたので、ディスカッションを終了</p>

させていただきます。

先ほどご案内いたしました但、本日はグループごとの概要発表については行わず、会議録と共に、皆様にお知らせすることといたします。皆様のご意見を出していただいた模造紙は廊下の壁に貼り出しておきますので、後ほどご覧いただければと思います。

では、テーマ②に入る前に、5分間休憩を取ろうと思います。事務局連絡事項が何かございますか。

事務局

(山下係長)

はい。休憩前に申し訳ございません。事務連絡をさせていただきます。会議の冒頭で、視察のご案内の資料を配らせていただきましたが、延期しておりました視察について、相手方との調整が整いましたので、改めてご案内した次第です。

日にちは、10月11日の火曜日、三連休明けの火曜日となります。見学する学校は午前中に、八千代市立みどりが丘小学校、午後に木更津市立中郷小学校です。

みどりが丘小学校は、鉄筋コンクリート造ですけれども、内装部分が木質化となっており、オープンスペースのある学校です。

中郷小学校は木造の校舎ということで、規模は小さめになりますが、雰囲気を確認できるかと思います。

午前中に八千代の方に行きますので、市役所を8時出発と予定しております。ご参加の可否については、会議終了後、事務局にお申し付けください。本日のご回答が難しい場合は、今週金曜日までに、事務局にお知らせをお願いしたいと思います。

なお、視察に出席できないという方もいらっしゃると思います。次回の検討委員会で、視察の報告をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

安藤委員

10月の第4回検討委員会の予定ってお決まりですか。

<p>事務局 (山下係長) 榎本委員</p>	<p>はい。10月20日木曜日を予定しております。 他にございますか。</p>
	<p>質問ちょっといいですか。視察は、委員と事務局を合計して13人程度で予定していると思いますが、万が一ご都合が合わない委員がいらっしゃって、欠員がありましたら、欠員の人数分、地元でやっていかないといけないので、私ども区長会の方で、推薦で欠員人数分参加するようにお願いしたいと思っております。</p>
<p>平野委員長</p>	<p>はい。回答させていただきます。今回は、コロナの関係もあり、前回も順延という形になりました。 今回お邪魔させていただく学校側の方にも、打診させていただいた際に、できるだけ人数の方は少なくお願いしたいというようなお話もございましたので、できる限り少人数での視察を考えております。 榎本委員のお話もよくわかるのですが、委員に委嘱された方のみという形で今回は視察させていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。</p>
<p>榎本委員</p>	<p>ですから、委員11人全員が視察に参加してくれるのがありがたいです。本来、定員が事務局の方2名合わせて13名ですよ。全委員、11名視察いただければ一番幸いなのですが、せっかくチャンスがあるのに、地元で区長が5人控えているんですよ。議員、議員さんのOBとか、区長のOBとか、そういう人が関わって昭和50年に青堀小が出来ているんですよ。 なにか他の地域の議員さんを気にしているような、議員さんは議員さんで、後で視察行ってくればいいんですよ。今は地域でやるべきときなんですよ。だから、私は無理に今の13名の中に2,3人増員してくれとは言っていないです。万が一行けない人がいた時に、我々区長会に任せていただいて、向かわせていただいて、推薦させてもらいたいです。そ</p>

平野委員長	<p>のくらい聞いてもらえませんか。</p> <p>はい。お答えいたします。やはり、ここにお集まりの検討委員の皆様は、代表ということでお集まりいただいております。仮に、参加できない方につきましては、前回同様に、その学校の内容についてのご報告をさせていただきまして、ご理解をいただければと思っております。</p> <p>どうしてもそのような対応をしてしまいますと不公平感が出てしまうといけません。検討委員の皆様が、今回は青堀小学校の関係で検討していただく趣旨でお集まりいただきまして、視察先の学校の方に伺うのも、同様の趣旨でやらせていただきますので、ご理解をいただきたいと思っております。</p>
榎本委員	<p>地元と一生懸命やっていかないといけないので、申し訳ないですが、他の議員さんのことを気にしないでもらいたいですよ。なんかそういう感じがするんです。地元の人たち、議員さん、議員OB、区長、区長OBとか、色んな人を交えて、青堀小学校をより良いものにしたいという願いです。視察に行きたいんです。なんで委員長がそんなに初めから管理しているんですか。要望しているんですよ。</p>
平野委員長	<p>わかりました、上限の範囲で対応をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。</p>
事務局 (山下係長)	<p>それでは5分間の休憩とさせていただきます。15時20分からとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>【5分休憩】</p>
平野委員長	<p>はい。それでは皆様お揃いですので、休憩前に引き続きまして、グループディスカッションを続けさせていただきたいと思っております。テーマ②「学習空間の在り方」について、柳澤先生の方からお話をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
柳澤教授	<p>資料を見て、やや誤解が生じるのかなと思ったのですが、</p>

廊下と教室をオープンにするかどうかという議論はですね、
どういう空間がアクティブラーニングに適するかと考えたときに、これまで教室でできなかったことをどうするか、例えば教室を少しバージョンアップする考え方もありますし、教室は今までのままだでも新しい場所を作って、そこでアクティブラーニングができるような話もあるかもしれませんし、廊下の機能を拡張するとかいろいろな話があると思いますが、オープンにするかクローズにするかという議論と、どのような場所を新しく作るのか、今まで教室があって廊下だけがある学校ではなくて、少人数学級や多目的スペースだとかその辺の議論を分けて考えてもいいのかなって思います。

例えば学習活動を考えたとき、先生の講義を聞くこともあります。それ以外に個人でワークシートで学ぶとか、資料を読んでテストを受けるとか、あとは視聴覚機器を使って学ぶとか、さらに、発表するとか、タブレットで何かを学ぶことも今は入ってくるかなと思います。それから、実習も色々な実験とか、あと特別教室がない部屋でも、例えば社会科で地図を作りましょうとか、英語の授業でディスカッションするとか、いろいろ出てきます。

そうすると教室の中ではこういう活動ができないね、ということがあるかもしれません。あと、色んな生活の活動が給食であったり、集会があったり色々あると思いますし、視点を変えると、クラス全員が一緒に何かやることを想定して教室を作っていますが、それを少し個人ベースで考える。あとは、クラスを超えて複数のクラスが同時に授業をやるとか、例えば習熟度別学習で学年2、3クラスがクラスの枠を超えて、もう1回違うグループを作って勉強するとなると、あるグループは10人ぐらいの小グループ、もう1つはもっと大きい30人ぐらいのグループ、そうすると、同じ教室のサイズが

3つあっても入らない、どこかの大きな教室のクラスは、多目的スペースに行かなくてはいけないし、小さいクラスは教室が広すぎるのももう少し小さくする、というように生活集団を同時に考えなければいけないのかなと思います。もう1つそういうことを考えていくと、どういうアクティビティが必要になるか、情報図書やオーディオビジュアル、コンピューターとか、展示や掲示の空間を作るとか、水まわりがあるとか、生活的なスペースや収納のスペース等、何が必要かを考えていく必要があるかなと思います。

そう考えると、通常だと今までのようなクラススペースがある一方で、ロッカーやラウンジがあった方がいいとか、集合する場所が欲しいとか、個別学習や実習ができるような場所が欲しいとかと、これは図書館でもいいかもしれません。図書のスペース、コンピューターとかそういった教室から展開した、様々な場所が必要になってくるという視点も必要なのかなと思います。なので、あまりオープンかクローズかという議論ではなくて、活動的なもので、今までの教室中ではできないことか、何かこういう機能が教室の中に欲しいとか、教室の広さとか、アクティビティベースで話を展開される方がいいかなと思います。今起こっていることを、新しい学校でどのように場を作っていくのか、例えば教室に付属してちょっとしたワークスペースがあるというのもありますし、クラスルームとは別にオープンスペースが設けられていたり、あと逆に閉じた部屋で実習や簡単な実験ができるような部屋を持っているような学校があったりしますので、少し柔軟にアイデアを出していただけるといいかなと思います。

これは私が設計に関わったのですが、通常のクラスルームとは別に、実習のスペースやオープンなラウンジのような空間と、先生の間所を持っている学校です。

<p>平野委員長</p>	<p>どういふうにその空間を使い分けるかという議論からも考えるといいかもしれませんね。はい。以上です。</p> <p>はい。ありがとうございました。今先生のレクチャーを参考にしながら、また、図面などを見させていただきましたので、情報を参考に教室のタイプや多目的ルームのイメージだけではなく使い勝手についても今先生の方からもお話ございましたので、そういうことも考えていただいて、お手元の付箋に書き出していただければと思います。</p> <p>5分経過いたしましたら、事務局からお知らせいたします。よろしく願いいたします。</p> <p>【5分各自考え】</p>
<p>事務局 (中山課長)</p> <p>平野委員長</p>	<p>はい。5分経過いたしました。</p> <p>はい。お疲れ様でした。</p> <p>それでは先ほどと同様に書き出した付箋を模造紙に貼り出していただきながら、グループ内で話し合っていたきたいと思います。20分程度のディスカッションをよろしく願いしたいと思います。またお声をかけさせていただきます。それでは始めていただきたいと思います。お願いいたします。</p> <p>【20分のグループディスカッション】</p>
<p>事務局 (中山課長)</p> <p>平野委員長</p>	<p>はい。では皆さんいかがでしょうか。</p> <p>それでは時間も参りましたので、ディスカッションを終了していただきたいと思います。</p> <p>それでは続きまして、テーマ③「地域開放、地域交流、地域との連携」に入りたいと思います。</p> <p>柳澤先生、情報提供よろしく願いします。</p>

柳澤教授

はい。地域連携に関しては先ほどスライドでご紹介させていただきましたが、学校と地域がどう関わっていくのかということで、なんとなく見る、見られるといった関係を作るだけでも効果的です。

例えば体育館のステージをガラス張りにして、開けられるようにし、外からも見えるようにする学校もあります。

プライバシーもあると思いますが、学校のことを知ってもらうというのは重要だと思います。

一方で、学校の敷地を地域に開放する動きが 80 年代に結構出てきて、美浜打瀬小学校の近くにある打瀬小学校も自由に校舎内に入れますが、その後に池田小学校で事件があって、学校開放することに関してはかなり否定的な意見が出ました。

今でも色んな議論があって、学校を閉じるのか、外から入れるのかあるいは外から見られるようにするか、なかなか難しいことだと思います。

ただ個人的には、刑務所みたいに閉じてしまうっていうのは、かえって地域と学校が離れて、安全上もマイナスになる場合もあります。ある程度地域の目があって、不審者が入ってきたら、地域の人が気づくことも重要だと思いますし、実は池田小学校が改築されて、資料見ていただければと思うのですが、不審者が入ってきて気づかなかったことを反省して、体育館もガラス張りにして、職員室から全部敷地を見渡せるようにできています。各学年のユニットにも先生のコーナーが入口にあって、そこから全部見渡せるようにする等、閉鎖するという考えではなく、なるべくオープンにすることによって、常にどこでも目が行き渡るようにしていることもあります。そのような観点からも、見る、見られる関係を議論していただければなと思います。

もう1つは、連携をどうするのか。今は体育館を開放していると思うのですが、それ以外の施設はどうするかっていうのも大きな議論になります。音楽室や家庭科室、理科室、図工室等の空間も地域利用を想定することもあるかもしれませんが、私が愛知県で関わった学校は小規模校で元々あまり予算もなかったのですが、フルスペックで色んな特別教室を作ると、かなり予算オーバーになってしまうことで、学校として作る機能は職員室と普通教室だけにして、あとの特別教室や体育館は地域施設や社会教育施設として作って、学校がそれを借りるという形でした。

実は学校もそういった事例がありまして、体育館やプールは地域施設、社会教育施設として整備して、その代わり温水プールするとか、体育館以外、講堂等、地域のイベントにも使える立派な施設にしておいて、学校が優先的に使う、そういう考えもあるかもしれないので、今回のプログラムには合わないかもしれませんが、どのような施設がより地域に利用されるものになるのか、それに対して安全はどう守っていくのか、体育館をセットにして、開放する棟と開放しない棟を明確に分けることもありますし、安全を守りながら地域施設をどうするか、もし将来的に生徒数が変わっていく場合に、空いた部屋を地域開放に転用する考え方もありますね。青堀小学校の場合は、もしかすると、統合してむしろ生徒数が増える可能性もあるという話を先ほど伺ったのですが、意外とうまく学校施設と地域施設を組み合わせれば、地域施設のニーズが高まったときに開放する部屋を増やしたり、逆に学校が必要なときには戻す、その辺の柔軟性を持たせることによって、うまく使い分けられることもあると思います。

先ほどスライドで見せた、京都の御池中学校は、空き教室がオフィスにも転用できるようになっていて、私が訪問した

<p>平野委員長</p>	<p>ときには、上階は教育委員会が使っていました。学校は都心部なので、高層マンションが建つとすぐに教室が足りなくなる。そうすると教育委員会が使う部屋は学校に返したりということもあります。色々な使い方をするというのもあり得るのだと感じました。色々な視点からアイデアを出していただければと思います。以上です。</p> <p>はい。柳澤教授、ありがとうございました。</p> <p>それでは、レクチャーを参考にさせていただきながら、委員の皆様は情報を参考に、学校施設を地域の皆様がどのようなことに使うのか、学校と地域がどんな連携ができるか、また、前回のディスカッションでも、フェンスや校門の件についても意見がございましたので、様々なご意見を出していただきたいと思います。</p> <p>また、再度5分経過いたしましたら、事務局からお知らせいたします。それではよろしく申し上げます。</p> <p>【5分各自考え】</p>
<p>事務局 (中山課長) 平野委員長</p>	<p>はい。5分経過いたしました。</p> <p>それでは、グループ内で話し合っていたいただきたいと思います。20分程度のディスカッションをよろしくお願ひしたいと思います。またお声をかけさせていただきます。それでは始めていただきたいと思います。お願ひいたします。</p> <p>【20分のグループディスカッション】</p>
<p>事務局 (中山課長) 平野委員長</p>	<p>はい。では皆さんいかがでしょうか。</p> <p>それでは、お時間が参りましたのでディスカッションを終了させていただきます。予定しておりました3つのテーマにつきましては、それぞれのグループで活発なご議論をしてい</p>

柳澤教授	<p>いただきました。誠にありがとうございました。</p> <p>柳澤先生から適切なアドバイス、レクチャーをいただき、ありがとうございます。振り返りとして、最後に先生の方から何かございましたら、お話いただければと思います。</p> <p>はい。お疲れ様でした。通常であれば、私はワークショップやるときは学生とかにファシリテーターになってもらったり、最後にそれぞれのグループから発表して、意見交換していますが、本来であればそのような機会があると思います。出た意見をどうフィードバックしていくのかももちろん重要で、大体ワークショップやると色々意見を言ったけど、ちゃんと反映されるのかということがあるので、基本計画とか、設計の段階であれば、設計にどのようにフィードバックするか、まとめていくのは難しいですが実際はまとめないと、実際に反映できないという部分もあるので、方向性が見える部分に関しては、これは皆さん共通した要望だとか、これは結構対立しているのでなかなか議論が難しいとか、大勢の意見があればそれを具体的なアクションとして方針をまとめていくことがあるのかなと思います。はい。ありがとうございました。</p>
平野委員長	<p>ありがとうございました。まさに、本日は皆さんの発表時間は割愛させていただきましたけれども、ご案内が事務局の方からもございましたとおり、前回のディスカッションについては、それぞれの項目でまとめさせていただいております。</p> <p>今回もそれぞれのグループの皆様に色んな意見を出していただきありがとうございました。</p> <p>3つのテーマのご意見をまとめたものについて、事務局の方に、この意見をどのように進めて反映するのかという点のお話を少し聞かせていただきたいと思います。</p>

事務局
(中山課長)

お願いします。

はい。それでは今後の皆様からいただきましたご意見をどのような形にしていくのかをご説明させていただきます。

前回、本日共に出されたご意見、またアンケートで多くのご意見をいただいております。こちらをまず、基本構想の案に整理してまいります。整理していく際に、さらに議論を深めたいテーマがございましたら、次回以降も時間を設けさせていただきます。基本構想案というのは10月開催の第4回会議においてお示しします。

こちらの基本構想案をお示しするとともに、皆様から出た意見をどのように反映したのか、また反映が難しかった意見については、どういった理由か、この辺をあわせてご説明する考えです。その上で基本構想案として不足があるのか。どんな点を更にディスカッションを重ねたいのか等、ご意見をいただき、より良いものにしていきたいと考えております。基本計画を案としてお示しする2月の会議までの間、さらに会議を重ねてご検討いただく予定としております。

以前の会議で、榎本委員の方から議論を深めるために、会議の追加をとというご提案がありました。まずは11月に追加で会議を開催したいと考えておりますので、皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。

また、先ほども申し上げましたけども、まだまだ深掘りが足りてないテーマがある等、次回の会議で希望するテーマやこういった資料が欲しいというようなご希望がありましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

本日お手元に前回ディスカッションの意見を取りまとめたものをお配りしました。これは第1回の会議でお示した青堀小学校改築における基本方針の10個の項目に仕分けをしております。各テーマの参考にしていただければと思います。

	<p>議論の参考にというようなご希望がありましたら、対応いたしますのでお申し出ください。以上です。</p>
平野委員長	<p>はい。ただいま事務局の方から説明がございました。意見の取り扱いの説明ということで、会議の追加の提案もございました。また、ディスカッションのテーマとして、希望を出してほしいというお話でございます。これに対して、皆様方から何かご要望なり、ご指摘がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
榎本委員	<p>はい。榎本委員。</p>
	<p>柳澤教授は、次回以降も出席していただけますか。</p>
柳澤教授	<p>都合がつけば、できる限り参加したいと思います。よろしくお願ひします。</p>
事務局 (中山課長)	<p>事前の打ち合わせの中で、11月の会議ではお約束いただいておりますので、それ以降もまた調整をして、できるだけご同席いただけるようには努めて参ります。</p>
平野委員長	<p>それでは、会議の追加について、賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。追加してよろしいという方は挙手をお願いしたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>(一同挙手)</p>
平野委員長	<p>よろしいですか。はい。挙手全員ということですので、11月に会議を追加して行わせていただきます。</p>
	<p>次にディスカッションのテーマとしてご希望がありましたら発言をお願いしたいと思いますと思いますが、いかがですか。</p>
	<p>後日、視察の件もございますので、その際にでもお声掛けいただければと思います。</p>
	<p>皆様から何か他になれば、事務局の方に次回以降の対応をお願いしたいと思います。</p>
	<p>< 5 その他 ></p>

<p>事務局 (山下係長)</p>	<p>その他について、委員の皆様から何かございますか。よろしいですか。それでは、事務局から何かありますか。</p> <p>事務局から連絡をさせていただきます。</p> <p>まず、日程の確認です。次回の第4回の日程は、10月20日木曜日同じく午後1時30分から青堀小学校で予定をしております。</p> <p>ご承認いただきました11月の日程につきましても、ご案内させていただきます。第5回11月の会議は、11月の17日木曜日の午後1時半から、同じく青堀小学校で開催をさせていただきます。改めて通知をいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日、会議の風景を写真撮影させていただいておりますけれども、ニュースレターですとか、ホームページの方の掲載について了承をいただいておりますませんでした。この場を借りてですね、ご了承いただければと考えております。よろしいでしょうか。</p>
<p>委員一同 事務局 (山下係長)</p>	<p>(異議無し)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>もう1点、参考で配布いたしました、他の自治体の基本構想・基本計画の補足です。先ほど説明させていただきましたとおり、基本構想の提示の時期が迫って参りました。その際に、参考資料の目次の方を見ていただきますと、基本構想が7ページから10ページ。基本計画が11ページから22ページとなっております。皆様のご意見をこのようなところに反映していきたいと考えておりますので、お時間がある時に後ほどご覧いただければと思います。</p> <p>以上となります。ありがとうございます。</p>
<p>平野委員長</p>	<p>はい。それでは以上をもちまして全ての議事を終了といたします。委員会会議進行にご協力いただきまして誠にありが</p>

事務局 (山下係長)	<p>とうございました。併せまして柳澤先生、本当に長時間にわたり大変ありがとうございました。</p> <p>それでは以上進行を事務局にお返しします。</p> <p><次第6 閉会></p> <p>はい。皆様、長時間にわたりましてありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第3回青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------